



東京国立博物館 木下氏の「薄く光っている雲の中から仏様がふっとお出ましになるイメージ」という指示に基づいて演出された国宝「雲中供養菩薩像」26躯

### 鳳凰堂が具現化した西方極楽浄土をLED照明によって表現

2001年に建設された平等院ミュージアム鳳翔館には、国宝の梵鐘、雲中供養菩薩像、鳳凰一對や重要文化財の十一面観音立像など、貴重な遺産が先進の収蔵環境の下に展示されている。今回行われた館内照明のリニューアルでは、照明設備をLED化。東京国立博物館の木下史青氏による監修のもと、貴重な国宝や文化財を美しく鮮やかに照らす照明計画が行われた。そのコンセプトは、平等院鳳凰堂が具現化した「西方極楽浄土」をLEDで表現するもの。国宝「梵鐘」を照らすグレアレス・ユニバーサル

ダウンライトは、展示物の色を自然に見せる「美光色」機能を追加した特注品。Ra95と高い演色性を実現するとともに、温白色(3500K)の光によって、梵鐘がもつ独特の青銅色を美しく、忠実に表現。調光により細かい模様を鮮明に見せ、梵鐘に映り込む影も軽減している。また、国宝の「鳳凰」と「雲中供養菩薩像」の演出では、光をフォーカスして展示物だけに当て、床や壁に出る多重影を解消。周囲から浮き立つような迫力ある展示を実現し、これまで見えにくかった表情も細部まで表現された。なお、当該施設は、2016年北米照明学会賞の「Award of Merit」を受賞している。

## 平等院ミュージアム鳳翔館

BYODOIN MUSEUM HOSHOKAN

### 平等院ミュージアム鳳翔館

#### ■照明設備リニューアル工事

所在地／京都府宇治市宇治蓮華  
 施主／平等院  
 照明監修／東京国立博物館 学芸企画部企画課 デザイン室長 木下史青氏  
 電気工事／パナソニックESエンジニアリング株式会社、光星エンジニアリング株式会社  
 リニューアル竣工／2015年9月



ライティングにより周囲から浮き立つような迫力ある展示を実現



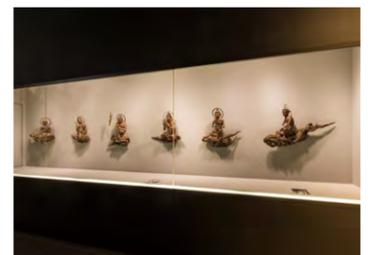
国宝「鳳凰」では1体に5灯のスポットライトで造形の美しさを表現



スマートフォンで操作可能なシューティングスポットライト



国宝「梵鐘」が持つ青銅本来の美しさを再現



鑑賞環境に配慮したショーケース照明



展示空間へ誘うアプローチの建築化照明

#### 主な設備

- シューティングスポットライト
- 個別調光スポットライト
- 調光美光色グレアレス・ユニバーサルダウンライト(特注)
- 展示ケース内照明(特注)
- 丸型ベースライト
- 地中埋め込み器具
- 看板用LEDユニット
- 調光盤

\*全画像：©平等院